

# 自主防災組織の活動

防災は、命と身体と財産を守るうえで、最も基本的な問題です。普段から十分な対策を講じておかなければなりません。

「自分たちの地域は自分で守る」という意識を持ち、活動の基盤を築いていきます。

## 1 自主防災組織の役割

大規模な災害が予想されたとき及び発生したときに、住民が的確に行動し、被害を最小限に食い止めるための活動を展開する

### [平常時の活動]

- ①地域内の安全点検、防災資機材の点検
- ②防災知識の普及・啓発、防災講座の開催
- ③各種防災訓練、災害図上訓練

### [災害警戒・発生時の活動]

- ①避難勧告等が出た時、速やかに避難誘導
- ②切迫した事態への対応
- ③各班ごと災害応急活動の展開  
(右下表参照)⇒
- ④市町村と協力して避難所の運営

自主防災組織が上手に運営され活性化している地区では、活動をあまり堅く考えず、防災対策を地域や団体などの行事に取り込んで行うことによって住民が気軽に参加し、日常的なふれあいの中で学習・体験を目指している例が多く見られます。



地震防災の重点は次の4点です。これを日頃の活動の中に取り込んでいる自主防災組織もあります。

- ・家屋の耐震診断と補強
- ・家具の転倒・落下防止
- ・非常持出品の準備と点検
- ・非常時の家族の安否確認

## 2 強力なリーダーシップを発揮

- ・防災上の観点からの地域の実情把握(自然的・社会的・人的な資源と弱点)
- ・組織の目標と活動計画(地区防災計画書、避難生活計画書等)の策定
- ・世帯台帳、人材台帳、災害時要援護者台帳(支え合いマップ)の作成と厳格な管理
- ・各種防災訓練、防災講座の実施による住民の防災活動の技術と知識の向上

平成二十三年三月十二日長野県北部地震が発生しました。さらに、いつ起きてもおかしくないといわれている東海地震・東南海地震や国内最大級の内陸直下型地震をもたらし可能性の高い糸魚川静岡構造線断層帯、牛伏寺断層などが生坂村の近くにあり、地震が発生した場合甚大な被害をもたらす危険地帯であることを認識しましょう。

自主防災組織の状況

＜全国＞	組織数	約14万組織
	組織世帯	約4千万世帯
	組織率	74%
＜長野県＞	組織数	約3700組織
	組織世帯	約74万世帯
	組織率	91%

市町村や自主防災組織が行う防火防災訓練の事故による障害に対する共済制度があります。事前に市町村等へ相談してみてください。

## 3 協働による活性化

消防団などの様々な団体や組織、さらに近隣の自主防災組織との連携により、防災活動における相互の活性化を図る

[地域の企業・事業所、学校、日赤奉仕団、青年団、女性の会等]

## 災害応急活動

### ■ 初期消火活動

- ・火災は、初期のうちに消し止めないと二次災害を起こします。
- ・全ての人が自宅や近所で行うことが大切です。

### ■ 避難・誘導活動

- ・普段からの避難・誘導訓練が、混乱状態での明暗を分けます。
- ・各自の携行品や服装の点検を行います。
- ・避難出来ない人の手助けを行います。

### ■ 応急救護・救出活動

- ・被災直後に、地域の仲間を助けるのは地域の力です。
- ・消防や警察も道路の状況でたどり着けないかもしれません。
- ・病院へ搬送するまでの応急的な手当が大切です。

### ■ 情報収集・伝達活動

- ・災害情報は、被災情報、ライフラインの復旧状況、避難勧告・指示の伝達等です。
- ・情報は二つの方向があります。
  - ①行政、防災機関やマスコミから地域住民へ
  - ②地域内の被災情報、生活情報等の住民ニーズを整理して地域外に発信

### ■ 給食・給水

- ・釜や飯ごうや大鍋で炊き出しを行います。
- ・公的機関からの救援物資の配給計画を立てます。
- ・給水拠点や給水方法を決めます。